

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）
研究報告書

介護領域におけるエビデンスに基づく高齢者のリハビリテーションの適応等についての研究

研究代表者 西村行秀 岩手医科大学リハビリテーション医学

研究要旨 介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するためには高齢者の診察にあたるリハビリテーション科医、各疾患領域の医師や医師以外の医療職種が適切にリハビリテーションを提供できるようにする必要がある。本研究で介護保険制度のもとで適切なリハビリテーションが提供できるようにガイドラインを作成する。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

(分担研究報告書の場合は、省略)

A. 研究目的

本研究の主目的は介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するためのガイドラインを作成することである。

B. 研究方法

本研究を計画的に進行するために適宜会議を設け、議題を検討した。2020年度に診療ガイドライン作成のためのトピック、クリニカルクエスチョンなどの選定、決定のために男性医師、女性医師、理学療法士、作業療法士、統計の専門家といった他職種で構成されたシステムティックレビューチームを設置した。メンバーで複数の診療ガイドラインを選定・購入し、その内容を検討し、キーワードの絞り込み作業と確認を行った。

(倫理面への配慮)

岩手医科大学の倫理審査に向けて準備中である。

C. 研究結果

2020年度において、web会議は20G A 0101班との合同会議が計5回、班会議を計7回開催した。対面会議は20G A0101班との合同WGを計2回、20G A0101班との合同小会議が計2回開催した。

脳卒中治療ガイドラインや認知症疾患治療ガイドライン等、関連するガイドラインを購入し、その中でリハビリテーションに関する内容を確認した。次いで、キーワードはPatient/ Participan/ Problemが20ワード、Interventionが23ワード、Outcomeが34ワードで検索した結果対象は15,572編で、一次スクリーニングにより14,673編、二次スクリーニングにより974編が該当した。現在は2次スクリーニングで該当した全文を確認し、選定している。

D. 考察

昨今のCOVID-19関連による様々な問題等で研究の進行が若干遅れている。次年度に研究を加速させ、予定通りに研究を遂行する予定である。

E. 結論

現在、研究遂行中で結論はまだである。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

2021年6月の第58回日本リハビリテーション医学会シンポジウムで本研究内容の一部を発表予定である。

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録